



F I N A N C I A L R E P O R T

79th 中間報告書

2009.4.1 - 2009.9.30

[特集]

① 第41回東京モーターショー 2009 に出展

② SUBARU の電気自動車「プラグイン ステラ」





代表取締役社長

森 郁夫

株主のみなさまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

ここに第79期の中間報告書をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

昨年後半からの世界的な景気後退はやや持ち直した感がありますが、本格的な景気回復にはまだまだ時間を要する状況にあります。

このような中で、当社の中間期の連結業績につきましては、北米や中国で販売が好調に推移しましたが、国内をはじめ欧州やその他の地域での販売が伸び悩んだことや前年に対し円高に振れたことなどにより、売上高では6,356億円と前年同期に対して減収となりました。また、利益面につきましては、コスト削減が順調に進んだものの、売上台数減と為替の影響が大きく、営業損失が114億円となり、経常損失につきましても118億円、四半期純損失が217億円と前年同期に対していずれも減益となりました。

このような厳しい決算とはなりましたが、当初の計画に対しては売上高、利益ともに改善が進んでおります。これは各国の新車買い替え支援策が全体需要を持ち上げたこともありますが、「フォレスター」や新型「レガシィ」といった、当社が新中期経営計画で取り組んできた商品開発の結果が

グローバルに受け入れられたことや国内特約店の統括会社化などのコスト構造改革が計画よりも早く効果を挙げたことなどが要因です。当社といたしましてはこの流れを下期も継続させ、年度の連結業績を当初予想の350億円の営業損失から大幅に改善したいと考えております。

なお、現在進めておりますトヨタグループとのアライアンスによる、OEM供給、共同開発等につきましては順調に進捗しております。また、環境対応につきましても、6月より電気自動車(プラグイン ステラ)の法人・官公庁向け販売を始めるとともに、ハイブリッド車につきましても早期に市場に導入すべく開発を進めております。

以上のように着実に改善は進んでおりますが、収益面ではまだまだ厳しい状況にある中、中間配当金につきましては当期の業績等を勘案いたしまして、誠に遺憾ではありますが見送らせていただきました。当社といたしましては株主様への還元を出来るだけ早期に再開できるよう、グループ一丸となりまして業績の回復に努めてまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも引き続きご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年11月

● 営業の概況(連結)

当第2四半期連結累計期間の売上高につきましては、北米および中国における自動車販売が好調に推移したものの、国内および欧州等の自動車販売の減少に加え、為替が前年同期に比べ円高で推移したことなどにより、6,356億円と前年同期比1,087億円(14.6%)の減収となりました。

利益面につきましては、販売管理費等の経費削減が増益

要因として大きく寄与したものの、自動車売上げ台数の減少に加え、円高による為替レート差の影響などにより、営業損失は114億円と前年同期比298億円の減益となりました。また、経常損失につきましても、118億円と前年同期比300億円の減益、四半期純損失は217億円と前年同期比261億円の減益となりました。

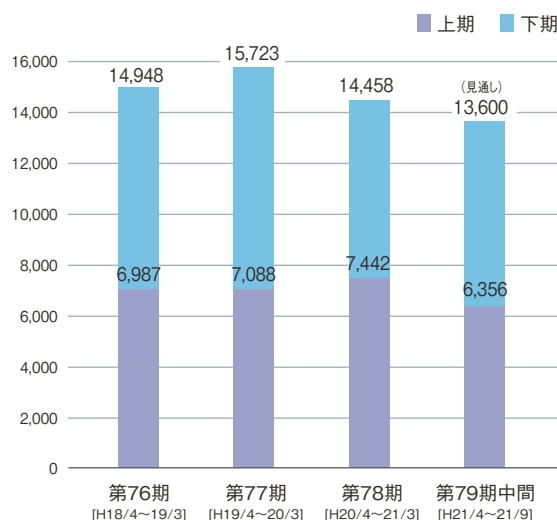
● 通期見通し

通期の連結業績につきましては、売上高1兆3,600億円、営業利益10億円、当期純損失250億円を予想しております。

● 連結の業績および推移

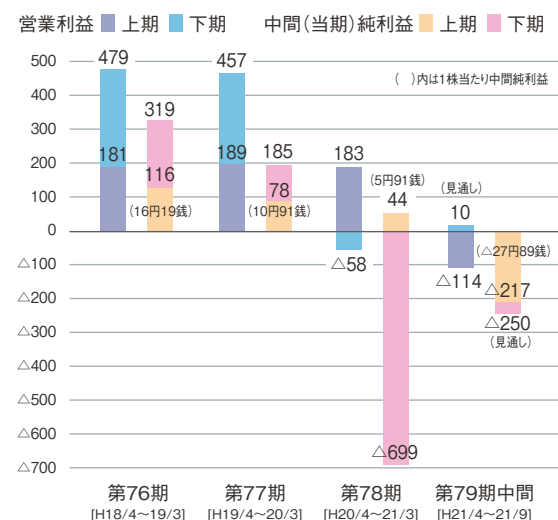
■ 売上高の推移

(単位:億円)



■ 利益の推移

(単位:億円)



自動車事業部門

北米、中国で販売を伸ばすも減収減益

国内の登録車の販売につきましては、今年5月に6年ぶりの全面改良を行った新型「レガシィ」が好調に推移しましたが、その他の車種の落ち込みをカバー出来ず、売上台数は33千台と前年同期比3千台(7.6%)の減少となりました。

一方、軽自動車につきましては、今年9月に「サンバー」の大幅改良を行いました、売上台数は46千台と前年同期比12千台(20.7%)の減少となりました。

これらの結果、国内における売上台数の合計は79千台と前年同期比15千台(15.7%)の減少となりました。

北米につきましては、新車購入補助金制度の効果や今年8月に本格的な販売を開始しました新型「レガシィ」の新車効果などにより、売上台数は108千台と前年同期比17千台(19.2%)の増加となり、全体需要が減少する中、好調に推移しました。

欧州につきましては、景気後退により販売環境が悪化している中で、新車購入補助金制度の効果による一時的な需要回復が見られる市場もありましたが、昨年まで販売好調だった口

シアの全体需要が急速に減少しており、売上台数は16千台と前年同期比34千台(68.3%)の大幅な減少となりました。

豪州につきましては、景気後退により全体需要が減少しており、売上台数は15千台と前年同期比5千台(26.3%)の減少となりました。

一方、全体需要の伸長が続く中国では、引き続き「フォレスター」が好調で、売上台数は17千台と前年同期比7千台(68.2%)の大幅な増加となりました。

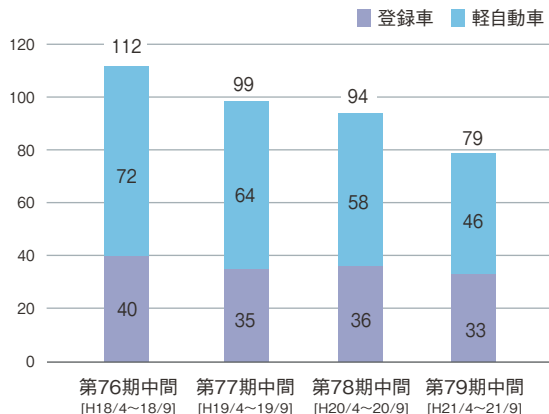
また、その他地域につきましては、7千台と前年同期比10千台(57.4%)の減少となりました。

これらの結果、海外における売上台数の合計は163千台と前年同期比25千台(13.2%)の減少となりました。

以上の結果、国内と海外の売上台数の合計は243千台と前年同期比40千台(14.0%)の減少となり、全体の売上高は5,744億円と前年同期比1,007億円(14.9%)の減収となりました。また、営業損失につきましては、143億円と前年同期比294億円の減益となりました。

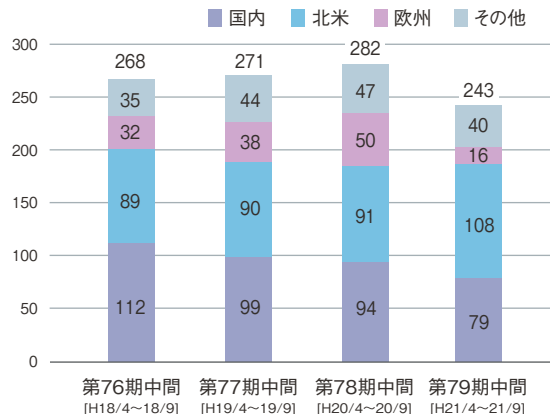
■ 売上台数の推移(国内)

(単位:千台)



■ 売上台数の推移(世界)

(単位:千台)



航空宇宙事業部門 防衛省向け製品の売上増により増収増益

防衛省向け製品では、多用途ヘリコプター「UH-1J」および「無人機研究システム」開発試作の売上増により、売上高は前年同期を上回りました。

民間向け製品では、ボーイング社向けの売上増加があるものの、円高による為替レート差の影響を受けたこと、および小型ビジネスジェット機「エクリプス500」の製造中止や中型ビ

ジネスジェット機「H4000」の主翼の納入機数減により、前年同期を下回りました。

以上の結果、全体の売上高は425億円と前年同期比2億円(0.4%)の増収となり、営業利益につきましても、24億円と前年同期比3億円(16.3%)の増益となりました。

産業機器事業部門 海外向けエンジン販売の減少などにより減収減益

新たに子会社2社を連結範囲に含めたことによる売上高の増加があったものの、金融危機以降の需要低迷により、国内をはじめ前期まで好調だった欧州・東南アジア向けエンジンの販売が大幅に減少しました。

これらの結果、売上高は121億円と前年同期比84億円(40.9%)の減収となり、営業損失につきましても、12億円と前年同期比8億円の減益となりました。

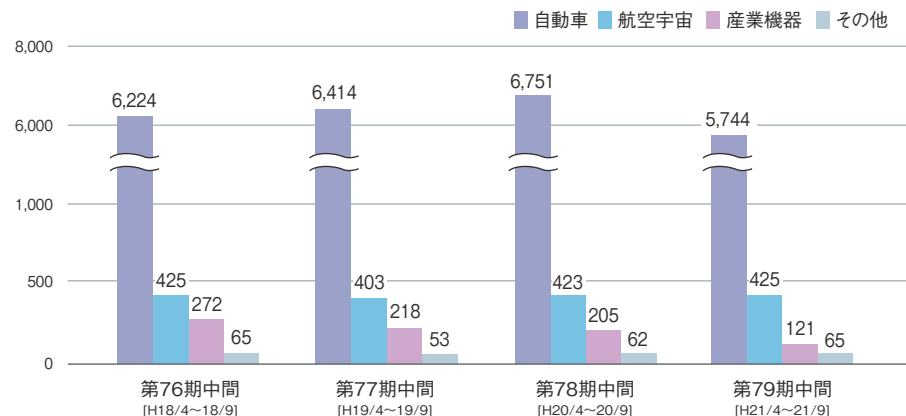
その他事業部門 フジマイティの売上台数減などにより減益

塵芥収集車フジマイティの売上台数の減少などがあったものの、大型風力発電システムを5機納入したことに加え、新たに子会社1社を連結範囲に含めたことなどにより、売上高は

65億円と前年同期比3億円(4.7%)の増収となりましたが、営業利益につきましても、9億円と前年同期比2億円(14.1%)の減益となりました。

部門別売上高の推移(世界)

(単位:億円)



連結貸借対照表

単位：百万円

科目	当第2四半期末 平成21年9月30日現在	前期末 平成21年3月31日現在	科目	当第2四半期末 平成21年9月30日現在	前期末 平成21年3月31日現在
資産の部			負債の部		
流動資産			流動負債		
現金及び預金	124,301	78,151	支払手形及び買掛金	172,258	148,015
受取手形及び売掛金	81,091	82,352	短期借入金	182,308	225,149
リース投資資産	27,388	27,074	コマーシャル・ペーパー	6,000	24,000
有価証券	32,454	11,439	一年内返済予定の長期借入金	19,599	21,956
商品及び製品	87,758	128,645	一年内償還予定の社債	20,000	—
仕掛品	94,017	96,425	未払法人税等	3,839	2,062
原材料及び貯蔵品	36,429	34,249	未払費用	51,309	50,524
繰延税金資産	14,763	15,918	賞与引当金	14,120	14,141
短期貸付金	56,558	59,434	製品保証引当金	17,548	17,934
その他	38,484	53,845	工事損失引当金	906	760
貸倒引当金	△1,571	△1,509	その他	59,665	56,707
流動資産合計	591,672	586,023	流動負債合計	547,552	561,248
固定資産			固定負債		
有形固定資産			社債	44,000	60,000
建物及び構築物（純額）	120,813	123,403	長期借入金	111,259	50,583
機械装置及び運搬具（純額）	100,119	108,077	繰延税金負債	10,404	7,448
土地	183,311	183,741	退職給付引当金	38,919	36,997
リース資産（純額）	—	20,765	役員退職慰労引当金	628	702
賃貸用車両及び器具（純額）	23,922	—	債務保証損失引当金	745	745
建設仮勘定	8,256	12,287	その他	52,067	52,989
その他（純額）	31,458	19,786	固定負債合計	258,022	209,464
有形固定資産合計	467,879	468,059	負債合計	805,574	770,712
無形固定資産			純資産の部		
その他	12,508	13,972	株主資本		
無形固定資産合計	12,508	13,972	資本金	153,795	153,795
投資その他の資産			資本剰余金	160,071	160,071
投資有価証券	59,355	51,838	利益剰余金	104,864	126,593
長期貸付金	3,289	3,334	自己株式	△2,090	△2,086
繰延税金資産	9,611	10,702	株主資本合計	416,640	438,373
その他	37,558	37,428	評価・換算差額等		
貸倒引当金	△5,724	△5,925	その他有価証券評価差額金	8,066	3,002
投資その他の資産合計	104,089	97,377	為替換算調整勘定	△54,866	△47,429
固定資産合計	584,476	579,408	評価・換算差額等合計	△46,800	△44,427
資産合計	1,176,148	1,165,431	少数株主持分	734	773
			純資産合計	370,574	394,719
			負債純資産合計	1,176,148	1,165,431

[注]百万円未満四捨五入

連結損益計算書

単位:百万円

科目	当第2四半期累計 自 平成21年4月 1日 至 平成21年9月30日	前第2四半期累計 自 平成20年4月 1日 至 平成20年9月30日
売上高	635,550	744,201
売上原価	522,836	577,025
売上総利益	112,714	167,176
販売費及び一般管理費	124,151	148,830
営業利益(△は損失)	△ 11,437	18,346
営業外収益	6,624	4,278
営業外費用	7,022	4,440
経常利益(△は損失)	△ 11,835	18,184
特別利益	437	2,221
特別損失	6,028	6,051
税金等調整前四半期純利益(△は損失)	△ 17,426	14,354
法人税等	4,362	9,917
少数株主利益(△は損失)	△ 56	41
四半期純利益(△は損失)	△ 21,732	4,396

[注]百万円未満四捨五入

連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

科目	当第2四半期累計 自 平成21年4月 1日 至 平成21年9月30日	前第2四半期累計 自 平成20年4月 1日 至 平成20年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	101,513	17,498
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 33,657	△ 33,706
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,889	2,158
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 4,990	△ 5,975
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	66,755	△ 20,025
現金及び現金同等物期首残高	96,515	114,649
連結範囲の変更に伴う増減額(△は減少)	226	2,045
現金及び現金同等物の四半期末残高	163,496	96,669

[注]百万円未満四捨五入

柔軟な発想による革新と、 時代が求める新しい自由を創造。

SAFETY&ECOLOGY 快適・信頼の新しい走りと地球環境の融合



究極のグランドツーリングへ

参考
出品車

SUBARU HYBRID TOURER CONCEPT



長年にわたり、シンメトリカルAWDで培った高い走行性能の技術を生かし、力強い走りと、独創的なハイブリットシステムで、走行性・環境性の双方に配慮した次世代のグランドツーリングカーを提案しました。安全性では、当社独自の先進運転支援システム「EyeSight」に、車車間・路車間通信技術を融合させた「EyeSight+」を搭載し、より広い範囲を認識することで更なる安全性の向上を可能にしています。

高いエネルギー効率を追求したシティコムーター

参考
出品車

Plug-in STELLA feat.BEAMS



この夏より国内で販売を開始した電気自動車プラグイン ステラをベースに、若者を中心にファッション、カルチャーシーンを牽引する有名なセレクトショップ “ビームス”が外装デザインを施した「プラグイン ステラ フィーチャリング ビームス」が会場を華やかにしました。ビジネスシーンや日々の生活での利便性を追求したシティコムーターとしてバランスの取れた1台です。

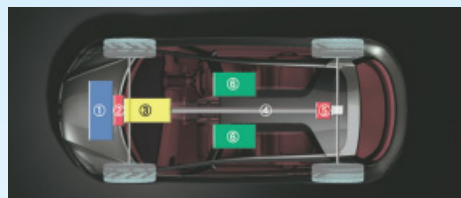
本年10月23日～11月4日に、千葉県・幕張メッセで第41回東京モーターショー2009が開催されました。当社は、“人に、心解き放つ瞬間を。”をテーマに、クルマの持つ愉しさを遊び、何にも代えがたい豊かな時間を提案しました。また、グローバルな自動車メーカーとしての環境問題に対する取り組みをアピールしました。これからも挑戦を続けるスバルブースの模様を紹介します。



走りの DNA を継承する独自のハイブリッドシステム

参考
出品

Hybrid System



①2.0L水平対向直噴ターボエンジン ②フロントモーター ③リアアトロニック
④プロペラシャフト ⑤リアモーター ⑥リチウムイオンバッテリー

シンメトリカルAWDの魅力を高めるためフロントとリアに駆動用のモーターを配置した2モーター方式のハイブリッドシステムを採用。通常走行、加速時、低速時と走行状況に応じて駆動力を使い分けることで環境性能と動力性能を両立した独創的なハイブリッドシステムです。

乗る人・歩行者を守るスバル独自の電子の眼

技術
展示

EyeSight



フロントガラス上部にある「ステレオカメラ」が危険を察知すると、必要に応じて警告・ブレーキ制御を行う運転支援システム「EyeSight」。「ステレオカメラ」と3D画像処理エンジンを採用することで、クルマはもちろん歩行者・自転車を正確に認識し、高度な予防安全性能を実現しています。現在、エクシーガに搭載モデルをご用意しています。

Driving Performance

走りの性能を磨き上げ
フィールドを駆け抜ける遊びを



洗練された大人のための
プレステージスポーツ

参考
出品車

IMPREZA WRX STI CARBON

2.5LターボエンジンとスポーツツィフトE-5ATの組み合わせで走りの愉しさを広げる「IMPREZA WRX STI A-Line」。カーボンルーフで車体を軽量化したことによりSTIが目指す“意のままに操る愉しさ”を次のステージへ昇華させたコンセプトモデルです。

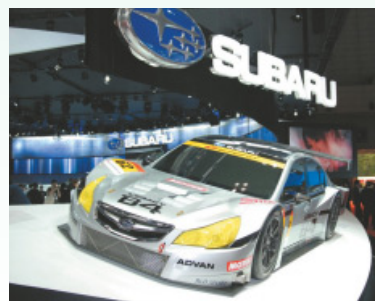


誰もが愉しめる
7シータースポーツ

11/4
発売

EXIGA 2.0GT tuned by STI

ツーリングアシーターとして乗る人すべてに快適な空間と爽快な乗り心地を提供してきたエクシーガ。「EXIGA 2.0GT tuned by STI」では、足回りを強化し、走りの性能をさらに進化させることで、誰にでも愉しめるスポーティで気持ちのいいハンドリングを実現しました。



日本で人気の高い
「SUPER GT」参戦中

参考
出品車

LEGACY B4 GT300

国内で最も人気のあるモータースポーツ「SUPER GT」に今シーズンの第6戦から参戦している「LEGACY B4 GT300」。LEGACY B4をベースに水平対向エンジン+シンメトリカルAWDという、独自の技術で優勝を目指しサーキットを疾走しています。

クルマ社会と豊かな地球環境の両立を目指して。

2009 年 6 月、SUBARU の EV (Electric Vehicle=電気自動車)
「プラグイン ステラ」がついに発売となりました。

ここでは、地球環境への配慮と実用性を兼ね備えた
理想のシティ・コミューターの性能、導入状況についてご紹介します。
私たち富士重工業は「プラグイン ステラ」と共に、
クルマに乗る喜びと、美しい環境を未来へ受け継ぐために走り出します。



新時代のクルマが、 すでに走り始めています。

今年 6 月より市販化したプラグイン ステラは、現在、東京電力、
郵便事業、武田薬品工業などに営業車として導入。
2009 年度は 170 台、来年度は 200 台の供給が計画されています。
また、東京モーターショーをはじめ、SUBARU ディーラーや、
各地でのエコをテーマにしたイベントにも出展・同乗試乗会を行い、
多くの方にスバルの未来への取り組みを感じていただいています。

2009 年 9 月末現在のプラグイン ステラ納入実績

東京電力(株)	25 台
武田薬品工業(株)	11 台
郵便事業(株)	3 台
(株)NTTドコモ	1 台
ニッポンレンタカーサービス(株)	1 台
カーシェアリング・ジャパン(株)	1 台



郵便事業に導入されたプラグイン ステラ

Plug in!



ディーラーでの試乗

暮らしと未来をつなぐテクノロジー。

▶▶ 今までのクルマにはない、電気自動車ならではの特徴やメカニズムをご紹介します。

走行中の CO₂ 排出量 0*

ガソリンを使用せず 100% 電気で走るため、走行中の排気ガスを全く発生しません。*

*発電から充電までの CO₂ 排出量は含みません。

100 円で 100km 走行可能*

高いエネルギー効率を追求し、燃料代もリーズナブル。

電気代が安い深夜電力での充電なら、100 円分の電気代で 104.5km の走行が可能です。*

*深夜電力での数値です。深夜電力への適用には別途電力会社への申し込みが必要となります。

なお、一回の充電で航続可能な距離は約 90km となります。

充電も簡単&スピーディ

急速充電器を使えば約 15 分で 80% の充電が可能。充電方法は急速充電器の他に、家庭用の 100V、200V 電源でも充電可能。携帯電話を充電するような気軽さで、EV のある生活を楽しむ事ができます。



東京電力に導入されたプラグイン ステラ



急速充電器による充電

OR



家庭用電源による充電

無駄が少なく高効率な設計

航続距離はもちろん、車両重量や充電時間なども徹底的に検討し、エネルギーロスの少ない EV を目指しました。長期に渡る走行試験で、最適なバッテリー搭載量を見きわめ、一回のフル充電での航続距離は約 90km を達成しながら、軽量で充電時間も短い理想的なシティ・コミューターです。

プラグイン ステラの市販化によって、世間の EV への注目度が高まる中、今後も、性能向上及び販売、サービスも含めた更なる質の向上に努め、EV のトップブランドを目指していきます。また、急速充電器の普及促進など、インフラ整備の面からも EV の将来を支えていきます。



活動レポート

「スバル レガシィ シリーズ」が 2009-2010 日本カー・オブ・ザ・イヤー特別賞 「Best Value」を受賞



当社の「スバル レガシィ シリーズ」が、2009-2010日本カー・オブ・ザ・イヤー（日本カー・オブ・ザ・イヤー実行委員会主催）の特別賞「Best Value（ベスト バリュー）」を受賞しました。今回の受賞は、昨年度に「スバル エクシーガ」が2008-2009特別賞「Most Fun（モースト ファン）」を受賞したのに続く2年連続となります。

レガシィは、1989年の初代モデル発売から20年間、シンメトリカルAWDなど独自のメカニズムによって、グランドツーリングカーとしての本質を追求し、多くのお客様の支持を得てまいりました。5代目となる新型レガシィでは、快適な室内空間、優れた走行性能と燃費性能を実現し「ゆとりのグランドツーリング」という新たな価値を提案しました。

今回の最終選考では、上記の特長を実現した熟成された水平



対向エンジンによるAWDシステムなどのメカニズムとあわせ、価格設定も高く評価され、特別賞「Best Value」の受賞となりました。

「2009-2010日本カー・オブ・ザ・イヤー」の概要

対象：2008年11月1日から2009年9月30日までに日本国内で発表または発売された全ての乗用車

賞典：「日本カー・オブ・ザ・イヤー」、「インポートカー・オブ・ザ・イヤー」、特別3賞（「Best Value」、「Most Fun」、「Most Advanced Technology（モーストアドバンスドテクノロジー）」、「Best 3rd Decade Car（ベスト サード ディケード カー）」）

スバル全モデルが米国IIHSの2009年安全評価で 最高評価である「トップセイフティピック」を獲得

— 新型レガシィは豪州、欧州でも最高評価 —

当社の米国販売会社スバル オブ アメリカ インク*は、北米地区で販売されている新型レガシィとアウトバック（ともに2010年型）が、米国保険業界の非営利団体であるIIHS**が行う2009年の安全性評価において、最高評価の「トップセイフティピック」を獲得したと発表しました。これで、既に最高評価を受けている、トライベッカ、フォレスター、インプレッサと併せ、スバルの全モデルが「トップセイフティピック」を獲得したことになり、モデルラインナップ全車が「トップセイフティピック」となる初めての自動車メーカーとなりました。新型レガシィは、既に、オーストラリアにおける安全性能評価である「オーストラレーシアNCAP」の乗員保護性能評価において最高評価の5つ星を獲得。また、欧州における



PHOTO：社内試験の様子

「ユーロNCAP***」においても最高評価を獲得し、世界的にトップレベルの安全性能を証明しています。スバルは、従来から定評の高い安全性能のさらなる向上に努め、これからもお客様へ安心と信頼を提供できるよう車の開発に取り組んでいきます。

* Subaru of America, Inc.：ニュージャージー州チェリーヒル、会長兼社長 連沼愛雄

** Insurance Institute for Highway Safety：ハイウェイ安全保険協会

*** 欧州各国の交通関連当局などで構成された独立機関が1997年より実施している安全性能評価

株主様工場見学会のご案内

今年も株主様向けの工場見学会をご案内いたします。ご同伴者様にもご見学いただけますよう、応募人数を50組100名様程度とさせていただきます。当社自動車事業部門の主力生産拠点である矢島工場と、同工場内の「スバル ビジターセンター」をご見学いただきます。

※なお、まことに恐れ入りますが、新型インフルエンザの流行の状況等により、やむを得ず中止させていただく場合もございますのであらかじめご了承ください。

● ご見学日時

平成22年4月9日(金)11:00~16:00予定

● ご見学場所

群馬製作所矢島工場およびビジターセンター / 所在地：群馬県太田市庄屋町1-1

● 生産品目

レガシィ、インプレッサ、フォレスタ、エクシーガ

● ご集合場所

東武伊勢崎線太田駅(浅草から特急りょうもう号で約1時間20分)

①当日は、東武伊勢崎線太田駅より送迎バスをご用意いたします。

②お車で越しの株主様は矢島工場に直接おいでください。

③当日のご集合場所までの交通費は、株主様のご負担とさせていただきますのでご了承ください。

● ご見学人数

50組100名様程度とさせていただきます。

(株主ご本人様とご同伴者様1名様)

①ご希望者多数の場合は、誠に勝手ながら新規お申し込みの株主様を優先し、抽選とさせていただきますので、ご了承ください。

②当選、落選に関しましては、株主様ご本人に直接ご連絡し、当選の株主様には、当日の詳細をご案内いたします。

■ 個人情報の取扱いについて

今回ご応募いただきました株主様およびご同伴者様の個人情報は、①本見学会の抽選、②当日の詳細に関するご連絡、③ご参加状況の確認、にのみ使用させていただき、当社が責任を持って管理し、使用後は廃棄いたします。また、いただいた個人情報を第三者に提供することはありません。



PHOTO:スバルビジターセンターの展示コーナー



PHOTO:群馬製作所 矢島工場



PHOTO:矢島工場内の製造ライン

● お申込方法

官製ハガキに、株主様およびご同伴者様の①郵便番号②ご住所③お名前④交通手段(電車・車・その他)⑤電話番号⑥携帯電話番号⑦ご同伴者様とのご関係をご記入の上、以下の宛先までお送りください。

平成22年1月8日(金)の到着分をもって締め切りとさせていただきます。

● 宛先

〒160-8316

東京都新宿区西新宿1-7-2

富士重工業(株)総務部「株主様工場見学会」係

TEL 03-3347-2012

ご不明な点は上記にお問い合わせください。

配当に関する事項

当社は、株主の皆様の利益を重要な経営課題と位置付けており、業績や配当性向などを総合的に考慮しながら、長期的に安定した配当の維持を基本方針としております。

しかしながら、第79期中間配当金につきましては、当期の業績等を勘案し、誠に遺憾ながら見送らせていただくことに決定いたしました。

株式事項 (平成21年9月30日現在)

● 株式の総数

発行可能株式総数 1,500,000,000株

発行済株式の総数 782,865,873株

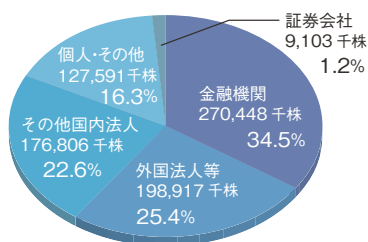
[注] 当期中の増加 0株

● 株主数

51,540名

● 株主の分布状況

合計782,865千株



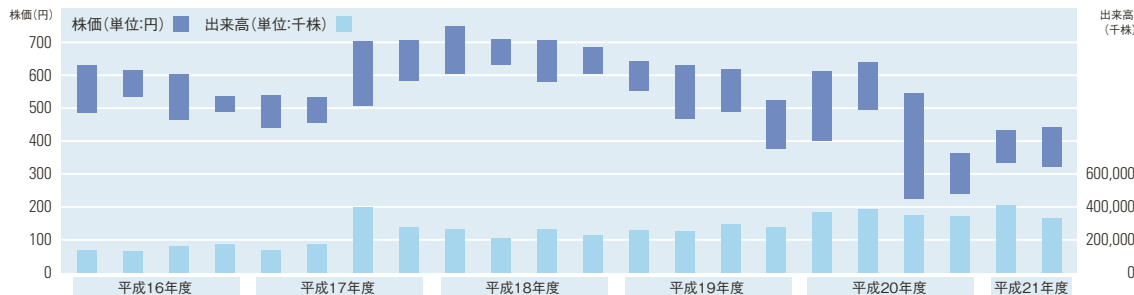
[注1]「個人・その他」には、当社所有の自己株式3,296千株が含まれております。

[注2]「その他国内法人」には、株式会社証券保管振替機構名義の株式12千株が含まれております。

● 大株主

株主名	株式数(千株)	比率(%)
トヨタ自動車株式会社	129,000	16.48
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	46,653	5.96
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	37,773	4.82
日本生命保険相互会社	15,986	2.04
ザバンク オブ ニューヨーク メロン アズ デポジタリー バンク フォー デポジタリー レシート ホルダーズ	14,535	1.86
スズキ株式会社	13,690	1.75
株式会社みずほコーポレート銀行	12,361	1.58
株式会社みずほ銀行	12,017	1.54
株式会社損害保険ジャパン	11,716	1.50
富士重工業取引先持株会	11,413	1.46

● 株価の推移



社 名 富士重工業株式会社
 英 文 社 名 Fuji Heavy Industries Ltd.
 創 立 1953年(昭和28年)7月15日
 資 本 金 153,795百万円
 従 業 員 数 12,577名(連結会社合計28,074名)
 主 要 製 品 普通・小型自動車、軽自動車、航空機、汎用エンジン、環境車両、風力発電
 本 社 〒160-8316 東京都新宿区西新宿一丁目7番2号
 代 表 電 話 03-3347-2111

役員 (平成21年9月30日現在)

代表取締役社長	森 郁 夫	執行役員	木 村 正 一
代表取締役副社長	小 松 照	執行役員	日 月 丈 志
取締役専務執行役員	及 川 博 之	執行役員	野 村 元 清
取締役専務執行役員	奥 原 一 成	執行役員	笠 井 雅 博
取締役専務執行役員	長 門 正 貢	執行役員	荒 井 直 人
取締役専務執行役員	近 藤 潤	執行役員	上 野 康 男
取締役専務執行役員	吉 永 泰 之	執行役員	小 林 英 俊
		執行役員	平 川 良 夫
常務執行役員	蓮 沼 愛 雄	執行役員	下 川 良 一
常務執行役員	武 藤 直 人	執行役員	務 川 達 彦
常務執行役員	馬 淵 晃	執行役員	小坂井 康 雄
常務執行役員	鴨 川 珠 樹		
常務執行役員	池 田 智 彦	常勤監査役	高 木 俊 輔
常務執行役員	永 野 尚	常勤監査役	石 丸 雍 二
常務執行役員	高 橋 充	☆常勤監査役	今 井 伸 茂
常務執行役員	宮 脇 基 寿	☆監 査 役	宮 川 義 一

[注] ☆印は社外監査役であります。

株式手続きのご案内

事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日
配当基準日 期末配当:3月31日、中間配当:9月30日
定時株主総会 6月中
単元株式数 1,000株
株主名簿管理人及び
特別口座管理機関 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告方法 日本経済新聞に掲載して行います。

株式に関する各種お手続き(届出住所等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式に関する買取請求書及び買増請求書等)に関するお問い合わせ、書類のご請求の窓口につきましては、以下のとおりです。

証券会社に口座をお持ちの場合

お取引の証券会社になります。

なお、未払配当金の支払、支払明細発行については、下記のお取扱店・電話お問い合わせ先・郵送物送付先をご利用ください。

証券会社に口座をお持ちでない場合(特別口座)

お取扱店 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
みずほインベスター証券株式会社本店および全国各支店
電話お問い合わせ先 0120-288-324(フリーダイヤル)
郵便物送付先 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4

スバルのエコカー減税&エコカー購入補助金 対象車

当社は、エコカー減税&エコカー購入補助金対象車を多数取り揃えて、お客様のご要望にお応えしております。

エコカー減税
50%
減税
(AWD・5MT車
/2WD・E-4AT車)

エコカー購入
補助金
対象車



インプレッサ1.5i-S

エコカー減税
75%
減税
(2WD・i-CVT車)

エコカー購入
補助金
対象車



ステラ L

エコカー減税
75%
減税

エコカー購入
補助金
対象車



エクシーガ2.0i-S

他にも減税対象車がございます。
詳しくはスバルオフィシャルサイトへ。
<http://www.subaru.jp/>

表紙PHOTO:レガシィ ツーリングワゴン2.5i L Package Limited
2009-2010日本カー・オブ・ザ・イヤー
特別賞受賞記念 特別仕様車
エコカー減税・エコカー購入補助金 対象車

富士重工業株式会社

〒160-8316 東京都新宿区西新宿一丁目7番2号
電話 03-3347-2111

[ホームページ:株主・投資家の皆様へ] <http://www.fhi.co.jp/ir/index.html>

